

みんなの想いが積み上がる。

デザイン & アートイベント「ツムテンカク」 通天閣 を中心とした 新世界 にて開催。

※「ツムテンカク」とは、「積み」と「通天閣」を合わせた造語です。

デザイン&アートイベント「ツムテンカク」とは、

明治36年3月～7月に開催された第五回内国勧業博覧会の跡地に作られた、都市型遊園地「ルナパーク」の目玉施設として、上がエッフェル塔、下が凱旋門という奇抜なデザインの初代通天閣が建てられたのは約100年前の1912年の7月。ルナパークには、「サークリング・ウエーブ」という上下動しながら回転する乗り物や、「音楽堂」。様々なアトラクションを上演する「清華殿」という大衆演舞場、「不思議館」などもあり、当時の最先端の技術を終結して作られた夢の遊園地でした。

※新世界ホームページより

その後通天閣は、足元の映画館からの出火で焼け、1944(昭和19)年、解体されて鉄くずとして供出されましたが、戦後の1956年に通天閣は地域の人々の熱い想いにより再建されました。

その後、地域住民やここを訪れた多くの人々によって、その想いは受け継がれ、今や大阪に欠かせないシンボルとなっています。そして、その想いは新しい文化や歴史を創りながら、100周年、そして将来に伝えられようとしています。

そんな通天閣の4階展望フロアを中心に、デザインやアートを通して当時のルナパークのように大人も子供も目を輝かせ、素敵な「トキメキ」を感じる事の出来るイベント「ツムテンカク」を、通天閣会場・新世界会場の2会場で、2月10日の「通天の日」に合わせ、2011年2月5日[土]～2月13日[日]までの9日間、開催します。

*掲載しているものは、完成イメージです。実際とは異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

① 通天閣 “ツムテンカク” メイン会場
ツムテンカク (4F 展望台フロア)

